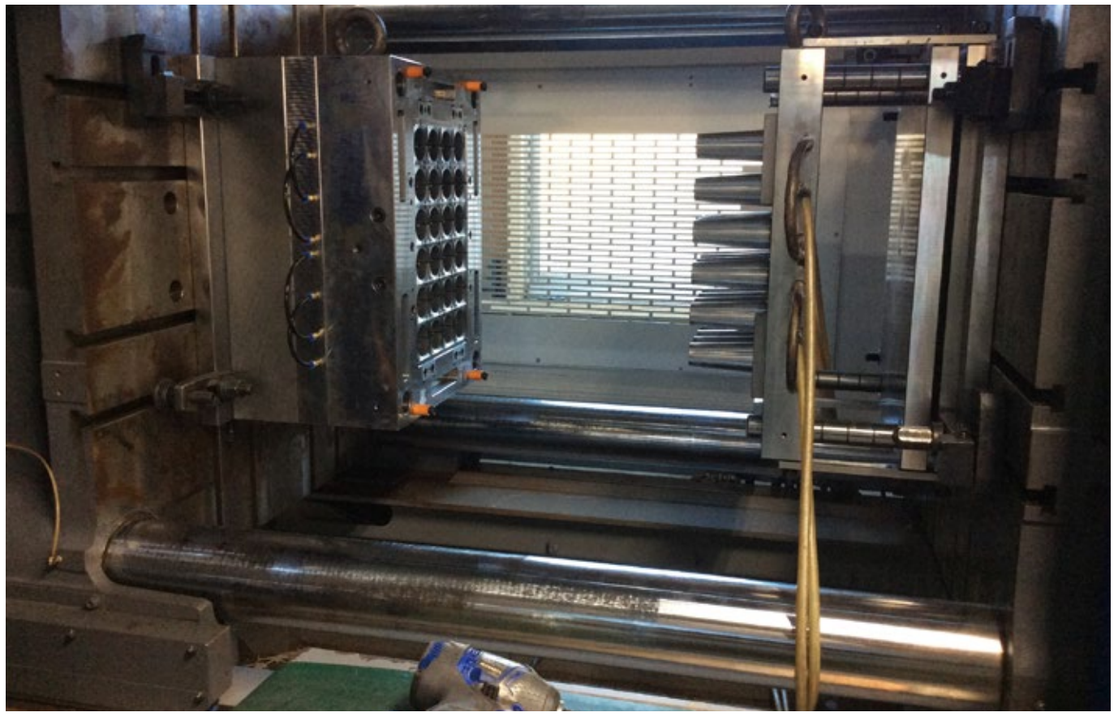
平成28年度

株式会社阪中緑化資材



会社紹介

樹木や園芸用資材の製造や販売に携わって 70 余年
育苗トレーや有機培土などオリジナル商品も多数開発

代表取締役 阪中 晋

緑化樹木移植用根巻資材、緑化工事用資材、各種園芸用資材、野菜・果物等の育苗資材の開発・製造・販売を手掛ける「阪中緑化資材」。昭和22年に「阪中種苗園」を立ち上げ、果樹・山林苗の生産流通をスタートさせた。31年には「阪中緑化樹生産センター」に改称し、緑化樹木の生産や大卸となる。60年に資材部を設置し、緑化樹木用資材の開発・輸入・加工・販売を開始。その後、有限会社を経て、平成2年に株式会社を設立した。

育苗トレー「空中ポットレストレー」や有機培土「ゆうきくん」など、同社ならではの実績に基づく知識とノウハウを反映させたオリジナル商品を多数生み出している。

補助事業

主力商品を山林の育苗用に改良して新規販路を開拓

同社は多種多様な緑化・育苗資材を扱っていて、主な主力商品に麻網目ポットや育苗トレーがある。中でも「空中ポットレストレー」は画期的な育苗トレーとして業界内で認められ、国際特許を登録、また意匠登録も実施している。「空中ポットレストレー」は基本的に野菜や果物用に開発・製造していたが、顧客から「山林の苗に適したトレーはできないか」という要望を受け、山林用の育苗に特化したトレーを商品化することを考えた。販路は既存客の一部を活用、樹木を生産している全国の業者を新規顧客に想定し、さらなる販路の拡大を期待して、同事業を導入。トレーを試作開発するために「トレー本体200金型」（扶桑精機）を購入し研究、改良を重ねて「ポットレスコンテナ230」が完成した。

成　果

同社独自の設計を取り入れて他社製品との差別化を図る

山林苗用に新たに開発したトレーは、ポット部の高さを13.5cmと深くして、支持根がより伸びるように製作されている。また、夏の異常気象による高温から苗を守るためにポット部全体にスリットを入れたり、自動培土入れ機や穴開け機に対応できるようにリブを設けたりと、同社独自の設計を取り入れた。さらに、トレーに直接培土を入れることで出荷植栽時に廃棄物が出ないなど、さまざまな点で他社のトレーとの差別化を図って、同社商品の優位性を強調した。

現在、東北、関東、中国、九州エリアの森林地で試験的に活用されている。今後も続けて山林苗や緑化樹木の生産者に同製品をアピールしていく予定だ。また、「空中ポットレストレー」がイチゴやトマトなどの育苗に最適であることから、「ポットレスコンテナ230」の山林苗生産以外の使い方も期待されている。

今後の展開

「ポットレスコンテナ 230」に付随した商品を積極的に販売

「根系がよい」「移植後の活着がいい」などの強みを生かし、里山の復元、山林の再造林、防風林、防潮堤などに植栽される樹木など、同製品を必要とする生産者にアピールしたいと考える。また、それに付随した他の商品の販売につなげたいとの期待もある。同事業を通して、必要な成果や比較データを公的機関から得て、次世代の植栽に向けての新たな展開が可能だとも思っている。

会社概要

会社名	株式会社阪中緑化資材
代表者	代表取締役　阪中　晋
所在地	和歌山県紀の川市桃山町市場269-1
資本金	2,500万円
従業員数	8名
業種	緑化・造園・育苗・農業資材の製造・販売
設立年月日	昭和62年
TEL	0736-66-2201
FAX	0736-66-2172
E-MAIL	srs@sakanaka.co.jp
URL	http://www.sakanaka.co.jp